

令和2年度 調布市立第三小学校 学校評価報告書（学校長 辻 久恵）

学校の教育目標

◎情操の豊かな子ども（重点） ○自主的に学ぶ子ども ○明るく健康な子ども

目指す学校像(ビジョン) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

○児童にとって 満足感・達成感・安心感のある学校→自他の成長を互いに認め合い、一人一人の子どもの居場所がある学校
 ○保護者・地域にとって 親しみと信頼のある学校→誠意ある対応をするとともに、情報を発信する学校
 ○教職員にとって やりがいと充実感のある学校→切磋琢磨し、教職員・児童の伸びが実感できる学校

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
自己評価	① 年間6回道徳科の研究授業を行い、「考える道徳」「理論する道徳」の実践を通して、自己を見つめる児童を育成することができた。	① 年間指導計画の改定版により「学校での学習」「家庭での学習」を連動させ主体的に考える力、習熟度を高める学習習慣を確立することができた。	① 3年生以上は保健領域で、1、2年生は学級活動や生活科と関連させた新型コロナウイルス感染症対策の指導を年3回以上行うことができた。
	② 「SOS の出し方」「SNS 東京ルール」に加え、学校再開時の心のケア等の取組を通し自分も友達も大切にすることを図ることができた。	② 休校中に行ったズームを使った「オンライン朝の会」や動画の発信による学習支援の体験を生かし、タブレットとプロジェクターを1日1回以上活用することができた。	② 「新しい生活様式」の徹底、及び新型コロナウイルスに対する体育に関する計画のもと、3密や用具の共有を極力避ける点に留意し安全な学習を通して体力向上を図ることができた。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
自己評価	① 学校アンケートで「豊かな心」の項目で肯定的な回答が90%以上であった。	① 学校アンケートで「学力」「家庭学習」の項目で肯定的な回答が90%以上であった。	① 学校アンケートで「新型コロナウイルス感染症対策」の項目で肯定的な回答90%だった。
	② いじめの早期発見・解消を達成した。	② ICT 機器の活用により「授業が楽しい」と肯定的な回答が90%を達成した。	② 学校アンケートで「体力」の項目で肯定的な回答が90%を達成した。
学校関係者評価	○データから「豊かな心」が育成されているととらえる。「道徳の授業で考えたことを家庭で話し、教えてくれます。とてもよい授業だと思います。」という声も届き、校内研究で道徳科の研究を進めていることも要因であると考え、これからもすべての児童の居場所がある学校であってほしい。	○データから家庭学習やICTの活用により楽しい授業が行われ、学力の定着についてはほぼついていけるととらえる。「先生がいつもノートにコメントを細やかに書いてくださり、それが励みとなりモチベーションアップにつながっている。」という声も届き、今後のプログラミング教育に期待が寄せられている。	○データから新型コロナ対策、体力についてはほぼ定着しているととらえる。「感染症対策に学校あげて取り組んでいただいていることに感謝します。」「三小ギネスやマラソンもよい機会だった。」という声も届き、今後も安全、安心の環境で体力向上に向けた取組を継続してほしい。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 オリンピック・パラリンピック教育の推進	5 保護者・地域との連携	6 食育の推進
	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
自己評価	① 初光' ック・パ' リ光' ック教育推進校及びアワード校の指定を受け、ゲストチャーを3回以上招きパ' ラート調布のもと5つの資質育成を図ることができた。	① オンライン保護者会や週1回以上校長通信及びホームページをアップして情報発信に努めることができた。	① 保護者と児童が食に関心をもつように毎日給食写真と一口メモをホームページにアップすることができた。
	② 「世界のお友達プロジェクト」の一環として世界の料理に取り組むことができた。	② 「地域学校協働本部」のコーディネーターを中心に地域全体で児童を育成する体制を整備し、その状況を学期に1回以上「地域学校協働本部だより」で発信できた。	② 新しい配膳、食事の仕方を定着させるとともに、教職員のアレルギーシミュレーション研修、調理員、栄養士、担任、管理職によるアレルギーチェックを毎日確実に行った。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
自己評価	① 学校アンケートで「初光' ック・パ' リ光' ック」の項目で肯定的な回答90%以上を達成した。	① 学校アンケートで「情報発信」の項目で肯定的な回答90%以上を達成した。	① 学校アンケートで「食育」の項目で肯定的な回答90%以上を達成した。
	② 10か国以上の料理に親しむことができた。	② 学期に1回以上おたよりを発行することができた。	② アレルギー事故ゼロを達成できた。
学校関係者評価	○データからパラリンピアンや世界の料理を通して、オリンピックパラリンピック教育の推進が図られているととらえる。「パラリンピアンとの触れ合いにより関心が高まりよい経験になった。これからも続けてほしい。」という声も届き、本番に向けてさらなる飛躍を期待する。	○データから地域学校協働本部の活用及び情報発信について十分なされているととらえる。「状況に応じてzoomでの朝の会や保護者会、YouTubeによる配信をしてくださり、とてもありがたい。」という声が届けられ、コロナ禍で情報交換が十分ではない時期に共有できたことは価値があった。今後さらに連携を深めてほしい。	○データから食育の指導、アレルギー対応ができているととらえる。「季節の特別メニュー、地産地消等、食育の取組に感心している。」「アレルギー対応、安心している。」という声からも充実していることがよく分かる。今後も食育の充実とアレルギー事故ゼロを継続してほしい。

人材育成・組織運営

自己評価	○学年集団、各部会において主幹教諭、主任教諭を中心にOJTの計画・実践を通して互いに学びあう教師集団を築くことができた。 ○管幹(管理職と主幹教諭)会議、運営委員会、学年主任会を活用し、経営方針の浸透及び教職員の考えの把握により組織的にトップダウン、フォローアップのバランスを保つことができた。
学校関係者評価	○組織的な取組ができている。教員の学びたいことを出し合い、得意分野を生かして講師を担うOJTの方法は、教員の力量を互いに高め合うことにつながっていると考える。 ○職層に応じた力がつけられるようなシステムになっている。コロナ禍の状況において、校長を中心に知恵を出し合い、トップダウン、フォローアップのバランスを保ちながら組織的な学校運営ができている。

中期的な経営目標の達成状況

1	特別支援教育の充実を図り、規範意識を高め、互いに認め合い支え合う子どもを育成することができた。
2	自ら学ぶ姿勢や習慣を身に付け学ぶ楽しさを実感する子どもを育成することができた。
3	健康についての正しい知識に基づき自分で自分の健康管理をする子どもを育成することができた。
4	オリンピック・パラリンピック教育推進校・アワード校として、国際社会に生きぬく子どもを育成することができた。
5	保護者・地域・関係諸機関との連携により生涯にわたって自尊感情を高め、自己実現を目指す子どもを育成することができた。
6	正しくかつ楽しく食事をすることを通して心身の健全な発達を実感する子どもを育成することができた。
人・組	OJT、OFFJTを通して実力をアップさせるとともに、組織の一員として力を発揮できる「チーム三小」を創り上げることができた。

次年度の重点課題

1	一人一台のタブレットを活用し、自ら学ぶ姿勢や習慣を身に付け、学ぶ楽しさを実感する子どもを育成する。
2	オリンピック・パラリンピック開催の年である。これを機会にオリンピック・パラリンピック教育推進校・アワード校として、5つの資質を身に付け、国際社会を生きぬく子どもを育成する。
3	健保護者・地域・関係諸機関との連携により生涯にわたって自尊感情を高め、自己実現を目指す子どもを育成する。
人・組	全教職員が同じ目標に向かって組織の一員として力を発揮できる「チーム三小」を創り上げる。教師は授業が命、OJT、OFFJTを通して授業力をアップさせる。